

中学校 技術・家庭科 部会（家庭分野）

部会長名 方城中学校 校長 鍋藤 聖一
実践者名 勾金中学校 講師 吉原 綾
報告者名 添田中学校 教諭 林 記代

1 研究主題

「課題を解決するために必要な実践力を身につけた生徒の育成をめざす技術・家庭科教育」
～家庭や社会で活用できる思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の工夫～

2 主題設定の理由

（1）今日的教育課題から

「知識基盤社会」といわれる21世紀は、新しい知識・情報・技術があらゆる領域での活動の基盤として重要性が増し、それらをめぐる国際競争が加速するといわれている。その一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性も増大させている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要とされている。

また、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査などの各種の調査結果から、思考力・判断力・表現力等を問う記述式問題、知識・技能を活用する問題の課題、学習意欲、学習習慣、生活習慣に関する課題、自分自身への自信の欠如や将来への不安、体力の低下といった課題などが指摘されて久しい。これらの課題の解決に向けて検討がなされ、さまざまな答申が出されるとともに、教育基本法の改正や新学習指導要領の改訂などの法的な整備が行われた。

新学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむことを継承し、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視している。「生きる力」を支える学力を確かなものにするために、習得した基礎的・基本的な知識や技術を家庭や社会生活の中で活用できる力が必要である。自分にとってより豊かな生活を追求するとき、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力をはぐくむ活動の充実が重要になってくる。

そこで本研究では、基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得させ、家庭や社会で活用するために思考・判断・表現して課題を解決することに着目し、研究を進めるものである。

（2）これまでの研究の成果と課題から

近年では、思考力・判断力に着目し、基礎的・基本的な知識や技術をもとに多様な視点に基づいて、よりよい意思決定をし、生活の中の諸課題を解決できる実践力を育ててきた。さらに、生徒が生活を自立して営めるように、自分なりの工夫を生かして生活を営むことのできる能力や態度を育ててきた。この様に、学習した事柄を進んで生活の場で活用できる力を身につけた生徒をはぐくむ学習指導に取り組み、一定の成果を得ることができた。今日、科学技術や情報化の急速な発展により、物質的にはとても豊かで便利な世の中になってきた。反面、核家族化、少子高齢化の進行とともに、子どもたちを取り巻く生活環境は急速に変化している。この変化し続ける社会に対応していくためには、生活を営む上で生じる課題に対して自分なりの判断をして、解決する能力や態度を育成することが必要である。そこには、これまでに学んだ知識や技術、経験をもとに関連づけて理論的に思考し、その考えをもとに正しく選択したり、決定したりする思考力・判断力だけではなく、思考・判断の過程や、結果を自他に理解できるように表現する力は欠かすことができない。さ

らに、技術・家庭科では、生活や社会に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としている。

そこで、この教科の目標をふまえ、社会の変化に主体的に対応できる力を育てることは、習得した基礎的・基本的な知識や技術を、家庭や社会に活用する能力や態度を育成することと考えた。本研究では、学習過程の中でこの能力や態度の基礎となる思考力・判断力・表現力に着目し、本主題を設定した。

(3) 生徒実態から

これまでの研究の取り組みから、身近な題材を取り上げて実践することにより、生徒はものづくりの良さや衣・食・住など生活に関わる知識を活用することの利点を体験活動に基づいて実感することができた。このような経験の積み重ねが日常生活の中でこれらの知識や技術を活用して実践することにつながっている。

しかし一方では、製作をはじめ実習等には意欲的に取り組み始めるが、自ら作業工程を理解し、作品が完成するまでの製作の見通し、作業の能率を考えて作業計画を立てることなどは苦手な生徒が多くなってきている。これらの要因として、自ら思考・判断したことが顕在化されていないために、自ら課題解決する確かな理解や解釈につながっていないことが考えられる。

そこで、学習活動の中で自ら課題を見つけ、思考・判断し課題解決していくことを、より確かな理解や解釈へ導く学習活動、即ち、言語活動を取り入れた授業づくりをすることで、生活や社会で活用できる能力と態度を育てることが重要である。

3 主題の意味

(1) 「課題を解決するために必要な実践力」とは

生活する上で直面する多様な課題に対して、自分なりの判断をして、課題の解決にあたり、中学校3年間で学んできた知識と技術を応用した解決方法を探求したり、組み合わせで活用したり、それらをもとに新しい方法を創造したりしながら、実際の生活の中で生かすことができる能力と態度のことである。

(2) 「家庭や社会で活用できる思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導」とは

家庭や社会で活用できる課題解決能力を身につけるには、課題に対して今までの経験や体験を関連付けて考える力、思考したことから解決に必要な内容を選択・決定する力、思考・判断した結果を他者に伝わるように表現する力、つまり、思考・判断・表現する力が必要になってくる。

学習活動の中で習得した知識や技術を基に、思考・判断したことを、言葉や図表などにしてあらわすことで顕在化し、集団の考えをまとめ発表したり、実習等の結果を整理し考察したりすることで、自分の考えを見直したり再構成したりすることができる。この過程を繰り返すことにより、より確かな思考・判断へと高めることができ、それが家庭や社会で活用できる思考力・判断力・表現力を身につけることになる。つまり、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導である。

技術・家庭科の学習指導で言語活動の充実を図るには、言葉だけではなく、設計図や献立表といった図表や製作物及び衣食住やものづくりに関する概念などを用いて考えたり、説明したりする活動を取り入れる。また、情報通信ネットワークや情報の特性を生かして考えを伝え合う活動を取り入れる。

4 研究の目標

学習活動の中で自分や集団の考えを文字にしたり、図表に書き表したりすることで、習得した知識をより確かな理解や解釈へ導き、思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成ができることを実践を通して明らかにする。

<めざす生徒像>

生活をよりよくするために、必要な情報や技術を適切に収集・選択し、自分の生活に取り入れようとする生徒

習得した知識や技術を活用して、自分の考えを整理し、伝達したり、説明したりできる生徒

家族や社会の一員としての自覚をもち、家庭や社会とよりよく関わろうとする態度を身につけた生徒

5 研究の仮説

学習活動の中で言語活動の充実を図り、次の場面を設定すれば、思考力・判断力・表現力を身につけた生徒をはぐくむことができる。

- ・自ら構想を立て制作や実習し、感じ取ったことを表現する場面
- ・学んだ知識や技能を活用して理解・解釈し、伝達したり説明したりする場面
- ・互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを評価・改善・発展させる場面

6 研究の計画（授業の計画）

（１）単元（題材等） 「わたしたちの食品の選択と調理」（B 食生活と自立）

（２）単元（題材等）の目標及び指導計画

単元		わたしたちの食品の選択と調理		総時数	17時間	時期	11～2月
単元の目標		身近な食品に関心を持ち、用途に応じて適切な選択をしようとしている。 （生活や技術への関心・意欲・態度） 班学習を通して、安全な食生活を営むための食品の購入について考え表現することができる。 （生活を工夫し創造する能力） 用途に応じて適切な食品選択ができ、日常食の調理に必要な基礎的な技術を身につけている。 （生活の技能） 身近な食品の品質を見分けるポイントについて理解できる。 （生活や技術についての知識・理解）					
次	時数	学習内容・活動	評価基準				評価方法
			関・意・態	工夫・創意	技能	知識・理解	
1	1	生鮮食品の種類や特徴を理解する。	生鮮食品の種類や特徴について関心をもっている。			食品について具体的な鮮度の見分け方を理解している。	授業中の発言・学習プリント
	1	生鮮食品を季節ごとに分類する。	生鮮食品を旬ごとに分類しようとしている。			生鮮食品の季節ごとの旬がわかる。	学習プリント

	1	加工食品の種類や特徴を理解する。	加工食品の種類や特徴について関心をもっている。			加工食品の種類や特徴がわかる。	授業中の発言・ノート
	1	食品の表示(食品添加物)について理解する。	食品表示の種類について、実際の食品から探そうとしている。			食品表示について理解している。	授業中の発言・学習プリント
	1	食品の保存について理解する。	食品にあった保存方法や保存期間に関心を持っている。			食品の保存方法を理解している。	学習プリント
2	1	調理計画を立てよう。	調理実習に関心を持ち、調理の流れと手順を考えようとしている。		調理の手順や時間を考えながら、調理計画をたてることができる。		学習プリント
	2	調理器具を使って、調味料を量ろう。	調味料の計量について、意欲的に取り組もうとしている。		調理器具を安全に使うことができる。		学習プリント・行動観察
	4	包丁を使ってみよう。 きゅうりの輪切りきり りんごの皮むき	野菜の切り方に関心を示し、技術を習得しようとしている。		包丁の使い方を知り、きゅうりの薄切りやりんごの皮むきができる。		行動観察
	4	調理をしよう。 太巻き手作り 味噌を使ってみそ汁作り	日常食の調理について、関心をもっている。		食品を適切に選択し、安全と衛生に留意して調理ができる。		行動観察・ワークシート

3	1	食生活の変化について考える。	食生活の変化について調べようとしている。	課題を見つけ解決するために工夫しようとしている。		授業中の発言
---	---	----------------	----------------------	--------------------------	--	--------

7 指導の実際

(1) 主眼

日常多く用いられる生鮮食品（肉・魚・野菜）を取り上げ、鮮度や品質（鮮度・原産地・期限表示など）の違う食品を見分け、選んだ理由を見分ける観点がどのようになっているか書かせる活動を通して、鮮度・品質・衛生などの観点から良否の見分け方を理解することができる。

(2) 授業仮説

鮮度や品質の違う2つの食品を比較し、選ぶ根拠を鮮度・品質（鮮度・原産地・期限表示など）の観点からみてどのようになっているかを書かせる活動をさせた上で、自らが食品の品質や安全面を考え食品を選択させれば、生鮮食品の選び方を理解することができるであろう。

(3) 準備

教師 ・教科書 ・学習プリント ・生鮮食品（肉・魚・野菜）・画用紙 ・マジック
生徒 ・教科書 ・ファイル

(4) 指導過程

は評価とその方法

	学習活動・内容	指導上の留意点	評価	配時
導入	1 食品がどのような形で店に並んでいるかを想起させ生鮮食品について知る。 2 生鮮食品とは何かを考える。	同じ食品でも、生のものと加工されているものがあることに気づかせ、生のものと加工されているものに分類させる。 【導入発問】 生鮮食品とは、どんな食品ですか？	【関心・意欲・態度】 食品に関心をもち意欲的に発表している。	10

展 開	3 本時のめあてを確認する。			
	めあて：生鮮食品を選ぶためには、どのようなことに気をつけたらよいか考えよう。			
	4 生鮮食品(肉・魚・野菜)を比較し、どちらの生鮮食品を選ぶか、いろいろな視点から考える。また、班で交流する。	【主要発問】 あなたならどちらの食品を選びますか？それはなぜですか？	どこに注意したらよいか視点(原産国・外観・価格・表示期限)を与え、生鮮食品(肉・魚・野菜)をそれぞれ比較し、どちらの食品を選ぶか考えさせる。	30
5 班ごとにどちらを選ぶか、その理由を発表する。		理由を記入させ、黒板に貼らせる。各班の発表が終わったらかわりの深いものをまとめ、購入のポイントを整理する。		
6 生鮮食品を選ぶためには、どのようなことに気をつけたらよいか考える。		生鮮食品は鮮度が低下しやすく腐敗も早いことを知らせ、魚・肉・野菜の新鮮な状態を説明し、プリントに書かせる。		
終	まとめ：生鮮食品は、鮮度・原産地・期限表示に気をつけて選ぶ。		【まとめの発問】 生鮮食品を購入するに、どのようなことに注意して選びますか？	10
末	7 本地の学習活動を振り返り、本時の学習で学んだことをプリントにまとめる。	本時の学習活動を振り返り、自己評価を行うことで、食品を購入するときのよりよい選択について自分の考えをもたせる。	【知識・理解】 本時の学習を理解できたか。	

8 研究のまとめ

技術・家庭科家庭分野では、「A 家族・家庭と子ども」「B 食生活と自立」「C 衣生活・住生活と自立」「D 身近な消費生活と環境」で構成されている。

本研究では、生徒の興味関心が高い「B 食生活の自立」の「食品の選択と調理」を題材として取り組んできた。

実践授業では、生活の中で生鮮食品を選択、購入するという活動経験が少ない生達に、生鮮食品の選び方を理解させるために、実物を視点（原産国・外観・価格・表示期限）に沿って比較させながら考えさせていった。（写真1・2）

また、班全体での意見交流を行うことで、自らの考えを持ち表現したり、集団の意見を分析・評価することで、課題に対する判断力を身につけたと考えられる。（写真3）

本題材の学習を通して、調理実習のみに意欲関心が高い傾向にある生徒達が、その前段である食品選択に対しても、自ら意欲的に関わり判断する態度を身につけられたといえる。

さらに今後も家庭分野の目標である、「実践的・体験的学習活動を通し、基礎的・基本的な知識及び技術の習得」「課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」を達成するための授業研究に努める必要がある。



写真1

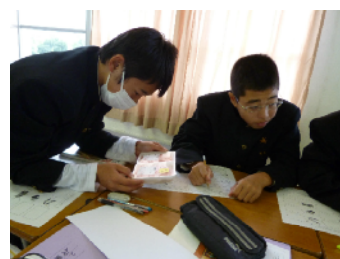


写真2



写真3

9 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

主題を設定し、学習活動の中でより確かな理解や解釈に導き、思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導のあり方を求めて研究を進めることができた。

生鮮食品の選択について、実物比較や意見交流により、自ら深く考え判断するという態度を身につけることができた。

【生徒の感想】

- ・食品を選ぶということは、思っていた以上に難しく、観察する眼が必要だと感じた。
- ・生鮮食品を選ぶ時は、よりよいものをよく見て選ぶことが大切だと思った。
- ・この授業で、生鮮食品について、具体的に学べてとても勉強になった。
- ・自分たちで、比較したり意見を言ったりしたことで、食品を選ぶ眼が少し出来たように思う。

(2) 課題

今後も、言語活動を重視した学習指導を行っていく必要があり、家庭分野でもさまざまな体験・実習活動から、思考力・判断力・表現力の能力をはぐくむ授業をより一層展開する必要がある。

理解力だけにとどまらず、家庭生活の中で実践していく機会につながる学習内容の実践が必要である。